

街道を歩く

太田宿 (伏見宿より2里)

中山道の難所一つ”太田の渡し”を渡ると太田の宿である渡し場が東に移るに従い町も東に延びてきた。渡船場で栄えた宿である。町並みは6町14間、東から上町、中町、下町とつ続き本陣、脇本陣を挟んで問屋、旅籠屋、遊女屋が東西に広がっていた。飛騨、郡上方面の分岐点寛文5年(1665)には川並番所が設けられる。天明2(1782)年尾張藩代官所が置かれるなど行政、文化の中心として落合から鷺沼までを統治していた

本陣 福田家

庄屋、問屋を兼ねていた。文久2年(1861)皇女和宮の降嫁の際建てられたという表門がわずかに残る。当時は建坪270坪、外堀りもあったという。



脇本陣 林家

問屋、庄屋を兼ねる、味噌、醤油を製造販売、質屋など母屋は明和6年(1769)に建てられたもの、卯建、潜り戸気抜けの梁、大釜戸、蔵など江戸初期の名残を残す。(国重要文化財)



坪内逍遙 (1859-1935)

太田代官所の手代の末子として生まれる。明治から大正にかけて文学、演劇、教育の分野で偉大な足跡を残す。



祐泉寺境内碑

中山道: 太田宿一坂祝(勝山)



龍興山祐泉寺

文明6年(1474)に開かれた古刹。境内には芭蕉の句碑、播隆上人の墓日本ライン命名の志賀重昂の墓碑がある。



宿街並み

播隆上人 (1786-1840)

槍ヶ岳の初登頂に成功した上人は太田宿をたびたび訪れる。晩年祐泉寺にわらじを脱ぎ脇本陣林家で没した。

岡本一平 (1886-1948)

漫俳という文芸をこの地に広める疎開先の白川町よりこの地に移住芸術家岡本太郎の父。

